

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、生徒の自律・自立を支援する。 ～ この学校で学んでよかったと思える学校づくり ～
--------	--------------------------------	------	--

評価計画						自己評価					学校関係者評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							7月	12月						
学習指導	1	確かな学力の定着	自主的な学習態度の育成	・課題発見・解決学習の単元計画の改善 ・寮学習方法の明確化	・単元計画改善(前期前半にて) ・寮学習の具体的な方法の策定(前期前半にて) ・生徒意識調査結果	期限までの実施 85%以上	宿題の実施 97.1% 宿題以外の実施 82.8%	宿題の実施 96.7% 宿題以外の実施 78.3%	宿題の実施 113.8% 宿題以外の実施 92.1%	3	・課題発見・解決学習の単元を改善したり、新たに開発することができた。 ・宿題への態度は肯定的評価が96.7%であり、取り組み姿勢は良いといえる。寮学習で行っている課題についても、自主ノートを活用した授業の復習、小テストの練習、宿題以外の問題集に取り組む姿が見られた。様々な自主学習の方法を指導していく。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
			わかる授業づくりの推進	・UDを取り入れた授業の徹底	・授業研究実施(後期前半まで) ・生徒意識調査結果	期限までの実施 95%以上	肯定的評価 95.3%	肯定的評価 96.7%	101.8%	3	どの研究授業においても、UDを意識して取り入れた授業を、展開することができた。視覚化や焦点化を積極的に試みることで、授業に対する生徒の評価は肯定的なものだった。わかりやすい授業づくりを進めることができた。さらに効果のある板書の活用等を研究していく。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
			キャリア教育の推進	・進路指導に係る計画の改善と実践	・指導計画の改善(4月中) ・年2回の生徒意識調査の実施による成果と課題の把握	期限までの実施 調査と分析の実施	将来の夢や希望に対し、肯定的評価 50%	将来の夢や希望に対し、肯定的評価 100%	3	児童生徒の意識調査では「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに対し肯定的回答が100%だった。体験的活動や進路講演会などで就労に対する具体的なイメージを持つことができたと思われる。系統的な進路学習を通して、目標や夢を実現する方法を考えさせたい。	A	将来の夢や目標を全員持つことができたことは、良かった。	継続して取り組んでいく。	
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	生徒理解に基づく指導の充実	・個別指導記録の活用による生徒実態や指導方針の共有	・生徒振り返り実施後の確実な学園連携と学校内での共有化の確実な実施	方法の明確化と連携・共有の確実な実施	記入率 20% 共有化 10%	記入率 70% 共有化 100%	3	従来の生徒指導委員会のやり方を少しアレンジして、生徒の振り返り実施後等で学園連携を行う際の内容を明確にした。連携の中で出た、本人の課題を確認し、それに向け指導していくという内容のものを取り入れた。委員会が出た意見は学年でペーパーを用いて共有するという方法を取り、共有化を確実にすることもできた。課題は連携後、すぐに記入という形がもっと確実になればよいと感じている。	A	特になし	継続して取り組んでいく。	
			部活動の充実	・全職員で見守る指導 ・広島学園との連携	・生徒意識調査結果 ・平日の部活動への教員参加率	95%以上 90%以上	生徒 87.5% 教員 100%	生徒 94.1% 教員 100%	生徒 99.1% 111.1%	4	教員は平日のそれぞれの部活動への参加教員を3人以上で達成という形で行い、複数で指導、見守るという形をとり、それぞれの部活指導者で声を掛け合いながら毎日参加することができた。その結果、生徒アンケートの積極的に取り組むことができたという項目で大幅に上がっている。見守りながら、声掛けを行った結果である。連携については、週1回の会議に滞りなく出席することができた。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
			原籍校との連携の充実	・原籍校連絡協議会の充実 ・組織的かつ計画的な連携	・連携に係る原籍校への意識調査結果 ・生徒の進路決定率	95%以上 100%	肯定的評価 43%	肯定的評価 91%	肯定的評価 95.8%	3	・学校職員と学園職員は積極的に情報交換がまだ必要である。 ・連携担当者主意による学校・学園間の連携や成果・課題の発信をする。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
信頼される学校	3	関係機関連携の充実	広島学園との連携の充実	・合同研修会の実施 ・教職員及び園職員意識調査結果	研修の実施 90%以上	研修1回 教職員 77.5% 学園職員 75.0%	研修1回 教職員 89.5% 学園職員 81.3%	教職員 99.4% 学園職員 90.3%	3	「学園の職員との良好なコミュニケーションを図ることができている」という意識調査で肯定的な回答をした教職員は92%、学園職員では96%と高く、連携を図られていた。一方、進路指導に関する連携においては、教職員は91%、学園職員では71%と差が大きい。生徒個人の状況等をお互いに確認しながら進路指導を進める必要がある。	A	進路指導については、学園職員との役割分担等ができてはいるが、個に応じてより一層の連携をしてください。	継続して取り組んでいく。	
			原籍校との連携の充実	・原籍校連絡協議会の充実 ・組織的かつ計画的な連携	・生徒の進路決定率	95%以上 100%	肯定的評価 43%	肯定的評価 91%	肯定的評価 95.8%	3	・学校職員と学園職員は積極的に情報交換がまだ必要である。 ・連携担当者主意による学校・学園間の連携や成果・課題の発信をする。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
業務改善や働	4	効果的な教育活動の充実	勤務時間を意識した働き方の浸透	・業務の役割分担の見直しと適正化	・勤務時間外の在校時間	月60時間未満90%以上	92%	95%	105.6%	4	10、11月で勤務時間外で60時間以上在校した職員は1人であったが、12月は全員60時間未満であった。また、教職員全員の平均では、28.3時間であり、前期よりも8.2時間少なくなった。効率よく業務を進めた結果と考えられる。	A	特になし	継続して取り組んでいく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成
3...目標どおりに達成

■学校関係者評価
A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない